

## 《 一関工業高等専門学校との教材開発について 》

本校は、平成 20 年度から独立行政法人国立高専機構一関工業高等専門学校と千葉悦弥教授、中山淳教授のお力をいただき、共同で障がいに対応した教材の開発に努めています。

教材開発に当たって、本校の職員が児童生徒の実態に応じて、このような教材があると学習支援に役立つと思われる教材の案を考え、教材のイメージを具体的に書いた教材案を作成します。この教材案を基に、一関高専の教官と学生の皆さんに教材を作成していただいています。より児童生徒のみなさんが操作しやすい教材を作成するために、担当教官と学生が本校に来校し、本校の職員と意見交換を行いながら教材開発を進めています。

これまでも「ハーモ君」(キーボードにつなぐと 5 つのコードで和音奏ができるスイッチ)、「分離型マウス」(児童の手指機能に応じてカーソル操作部分とクリック部分を分けて使いやすく改良したマウス)、「集会用電子ルーレット」など製作いただき学習活動に活かしてきました。



平成 30 年度には、聴覚障がいをもつ児童が体力測定 of 20m シャトルランを視覚的なアプローチによって正しく測定できるように依頼した「光ってわかるシャトルラン装置」が完成しました。

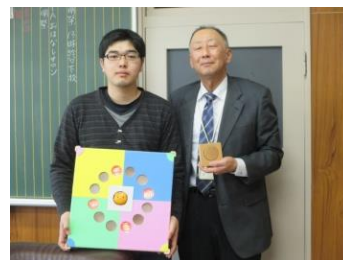
20m シャトルランの CD の音と同じ間隔で LED 電球が発光し、走るペースがつかめるように工夫されています。また、シャトルランの回数も表示できるようになっています。

今後も、一関高専のお力をお借りして、児童生徒の学習活動に活用できる教材開発に取り組んでいきます。

### 共同開発した教材

#### ■集会用電子ルーレット (2016 年)

おにぎりカップなど身近にある材料を使い、専門の知識と技術で、ランプの回転やタッチボタンに改良を加えていただき、より使いやすいルーレットとなっています。あすなる分教室で活用されています。



#### ■シャトルラン機器 (2017 年)

LED 電球を使い、電子音だけでなく残り時間が見えるように工夫されています。また、ランニングなど走った回数の記録もできるようになっています。

高等部で活用されています。

